

発展期セミナーがありました。

島根大学教育学部では、いよいよ後期の授業が始まります。後期の授業が始まる1週間前の期間、3つの必修セミナーが行われました。

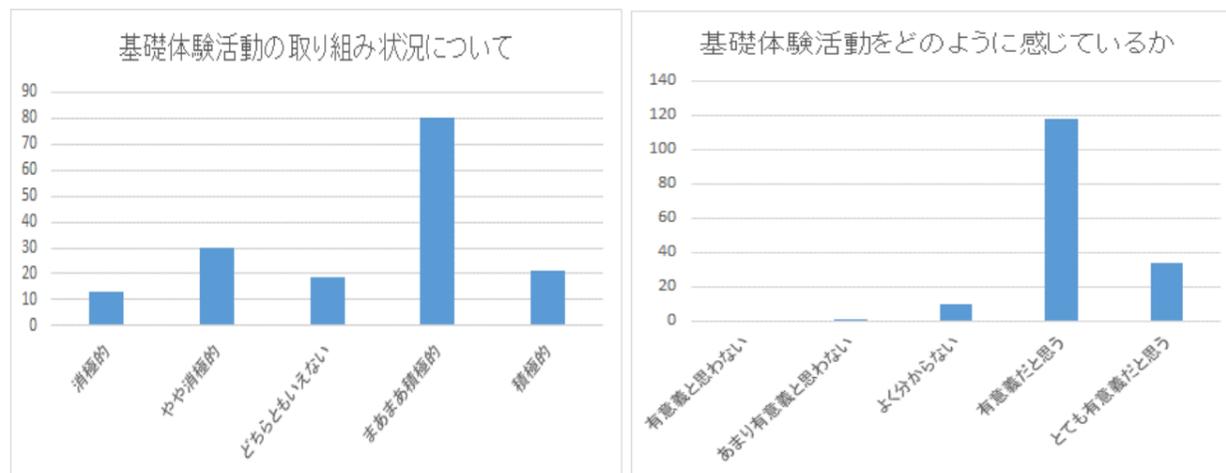
9月25日(月)は4回生を対象にした『発展期セミナー』がありました。この発展期セミナーは、1000時間体験学修における基礎体験領域での学びの総括と位置付けています。一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動に対する成果と影響度を協議することを通して、自分自身の学修について省察する契機とすることを目的としています。発展期セミナーは大学会館の3階にある集会室で行われ、163名の4回生が参加しました。セミナーは、クリッカーという機器を用いて4回生の基礎体験活動に対する意識をリアルタイムに確認しながら、グループごとに協議して、自分自身の基礎体験を振り返りました。

4回生にとっての基礎体験領域での学びは、今後、大学を卒業してからの自分自身の生き方や考え方を決める上での判断材料の1つになってくれれば幸いです。



発展期セミナーのアンケートより

発展期セミナーを終えた4回生163名に、これまでの活動を振り返って、答えてもらいました。



基礎体験活動の有意義性については、約93%が有意義な活動と回答しました。しかしながら、基礎体験活動の取り組み状況は、積極的に取り組めたと回答する学生が約61%に留まり、活動は有意義と感じていながらも、学業や部活動などもあり、学生自身によって異なることが分かりました。

4回生の感想より

○基礎体験があったからこそ、様々な経験を得ることができ、実践的な力を身につけられたと思う。それが、将来の職を考えたり、決めたりする時に活かされたと思う。社会人としての振る舞いの練習にもなっていたと思うので、いい影響を与えるものだったと思う。

○4年間を通して、活動の中で常に自分について考えたり、自分自身に問いかけたりと、自分と向き合うことが多かった。ただやみくもに参加するという時期もあったし、迷うことも多かったけど、進路や生き方を考える材料が多く手に入ったと思う。

○4年間の活動の中で、たくさんの人と出会いました。考え方や生き方は1つとして同じものはなく、全ての人から学ぶものがあったと思います。その人々のことを思い出して、今日は心が温まる感じがありました。この4年間で、私にとって1000時間はとても大きなものだったのだと感じました。

○1000時間体験学修がない生活を想像すると、これまでの体験で楽しかったこと、嬉しかったこと、悔しかったことの全てがなく、バイトやサークル、部活だけの生活では味わうことができなかった感情があります。そして、学生や大学の先生だけでなく、子どもや保護者、地域の人々というように、人との関わりが広がったことがとても嬉しく思っています。人がいたからこそ成長し、気づくことができた充実した4年間だったと感じています。

○1000時間体験を自己満足で終わらせるのか、自分の成長につなげて周囲に影響を与えられるのか、つまり、自己完結してしまうかそうでないかで変わってくると考える。活動への参加に関して、軽い気持ちで入るといことはどうなのかと感じた。もっと主体性を強く出した選び方が大切だと思った。

○基礎体験活動は、私の生き方へのスタンスに変化は与えていないが様々な人や子どもたちとの関わりを通して、やりたいことが変わったのも事実だと思う。色々な人との話の中でよく聞いたのは、やりたいことに挑戦せずに社会人になっている人が多かった。ならば、なおさら、色々な生き方を試してみようと思うようになった。入学当初のように生き急いでいたことを考えると、物の見方には少し変化があったように思う。

○「時間数をためる」「友達と行く」といった事が事実としてあるが、そこではなく、自らの学びのためであったり、教師力育成のためという意識を持って活動に取り組んだりする学生がもっと増えると更に良いカリキュラムになると思う。学びのシステムとして考えた時、理論と実践では実践がやや強いように感じられた。事前指導・事中指導・事後指導の質をもっと高めると良いと感じた。

○基礎体験活動を通し、支援センターの先生方には事務的な手続きのお世話だけではなく、私たち学生の心身のサポートもしてくださり、そのおかげで、有意義な活動ができたと思います。4年間お世話になりました。後輩たちをよろしくお願いいたします。

